



平成27年6月26日

各位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
 代表者 代表取締役社長 児玉 正蔵
 (コード番号 6112)
 問合せ先責任者 取締役執行役員経理部長 田中 教司
 (TEL 027-322-1221)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年1月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成27年11月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成26年12月1日～平成27年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	800	1	5	2	0.20
今回修正予想(B)	844	△135	△122	△123	—
増減額(B-A)	44	△136	△127	△125	
増減率(%)	5.5	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年11月期第2四半期)	767	△254	△240	△241	—

平成27年11月期通期個別業績予想数値の修正(平成26年12月1日～平成27年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,000	1	10	5	0.50
今回修正予想(B)	2,000	1	10	136	13.60
増減額(B-A)	0	0	0	131	
増減率(%)	0.0	0.0	0.0	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年11月期)	1,446	△450	△425	△159	—

修正の理由

当社の主製品である大型油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節的変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが当社事業の特性であります。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、売上計上につきましては、一部工事進行基準を適用しておりますが、当115期第2四半期累計期間における売上高につきましては、海外向け大型製品の売上が寄与したこと等で、前回予想数値(8億円)及び前年同期(7億67百万円)を共に上回る8億44百万円と増加する見込みであります。

利益面につきましては、受注競争厳しく好採算物件の確保が困難な状況が続いている中において、前期受注物件の一部につき、当初予想原価を上回る追加原価約96百万円の発生及び固定費全般の膨らみにより営業利益が大幅に減少したものです。これに伴い経常利益、四半期純利益を大幅減額するものです。売上増加や生産面の効率化でコスト削減に努めた結果、前年同期純損失(2億41百万円)のほぼ半減となる1億23百万円にまで回復しましたが、前回発表の業績予想、当第2四半期純利益数値2百万円には及ばなかったものであります。

なお、受注状況につきましては、当第2四半期累計期間の受注高は、受注競争厳しい中にありながらも、主に海外からの受注増加により、前年同期(8億88百万円)を上回る10億54百万円の受注を確保でき、受注残高につきましても、前年同期末(11億24百万円)から約4割上回る15億37百万円へと拡大傾向が続いており、下期の売上増加に期待しているところでございます。現在、国内外の鍛造・製鉄業界を中心に引き合いが浮上している大型案件の成約に向け全力で取組んでおり、一層の受注増加を目指しているところでございます。

平成27年11月期通期個別業績予想につきましては、下期売上予定の物件には良質、採算の良いものが予定されていることから、受注残の順調な消化により売上高・営業利益・経常利益に関しましては前回発表の予想通りで推移する見込みであります。また固定資産の譲渡契約により、当期純利益1億36百万円になる見込みでございます。

なお、当該固定資産譲渡の詳細につきましては、本日付で別途発表しております「固定資産の譲渡ならびに特別利益の発生に関するお知らせ」をご参照ください。

* 上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以 上